

レンジャーになりたい



平成28年度入省予定
環境省一般職自然系
内定者の声



自然公園法

第一条 この法律は、優れた自然の風景地を保護するとともに、その利用の増進を図ることにより、国民の保健、休養及び教化に資するとともに、生物の多様性の確保に寄与することを目的とする。

はじめに

こんにちは。この冊子を手にとっていただきありがとうございます。

生物多様性の保全、国立公園、里地・里山の管理、人と生物の共生、外来生物対策、自然再生、野生動物管理、希少野生動植物の保護増殖、自然ふれあい活動、環境教育、エコツーリズムの推進、森林、河川、海浜、湿地、湖・・・

この中に気になるキーワードはありましたか？これは環境省の自然系職員いわゆるレンジャー(自然保護官)の仕事に関するものです。環境省の様々な業務内容のうち、このような自然環境保全の現場で働いているのがレンジャーになります。

この冊子は私たち平成 28 年度環境省一般職自然系内定者がまとめた「内定者の声」です。私たちがどのような思いでレンジャーを目指し、勉強してきたのかをまとめてあります。レンジャーになりたい方はもちろん、レンジャーに興味はあるけれど勉強方法などが不安な方もこの冊子を読んでいただければ参考になるのではないのでしょうか。

私たちの考え方や勉強方法がレンジャーになる近道なのかは正直わかりません。ただし、一人ひとり様々な思いを抱えてレンジャーを目指してきたので、その経験談が皆さんの力になればとても嬉しいです。

いつの日か皆さんと一緒に働けることを楽しみにしています！！！！

環境省について

環境省の職員には総合職と一般職があり、それぞれ事務系、自然系、理工系に分かれています。

この冊子は平成 28 年度環境省一般職自然系区分の内定者で作成しています。

詳しい業務内容等については直接お話しを伺うか HP を参考にしてください。

環境省 HP <http://www.env.go.jp/>

環境省一般職自然系 HP http://www.env.go.jp/guide/saiyo/cat_ra3/index.html

(2015 年 11 月現在)

目次

はじめに・目次・・・P 1 国家一般職試験の流れ・・・P 2 官庁訪問とは・・・P 3

内定への道(利用した資料・参考書一覧 編)・・・P 4～

内定への道(私はこうして内定をいただきました 編)・・・P 6～ おわりに・・・P 2 2

| 国家一般職試験の流れ



下記の日程は平成 27 年度のものです。平成 27 年度は、就職活動の開始時期が後ろ倒しになったため、前年より約 1 か月遅れております。最新の情報は人事院または環境省の HP をご覧ください。

日時	内容	一言メッセージ
(平成 26 年) 12 月 1 日～	受験案内 ホームページに掲載	申し込み期間を確認してください。
(平成 27 年) 4 月 9 日～4 月 20 日	インターネットによる受付期間	期限に間に合うよう、余裕を持って！
6 月 14 日	第 1 次試験日	私服で構いません。
7 月 8 日	第 1 次試験合格者発表日	ネットで確認、後日はがきが届きます。
7 月 12 日	官庁合同説明会	官庁訪問の時、訪問する省庁を決めるためにも参考になります。積極的に参加してください。
7 月 22 日～8 月 10 日	第 2 次試験日	人事院の面接です。緊張しますが、落ち着いて話してください。
8 月 18 日	官庁訪問予約受付開始	メールでの受付になります。環境省では、順番が合否に影響するわけではないようですが、他省庁とのスケジュール等よく考えて申込みましょう。
8 月 20 日～	官庁訪問	クールビズで構いません。後悔の無いよう、全力を出し切ってください。
8 月 25 日	最終合格者発表日	なぜだか、官庁訪問の後になります。
9 月 11 日	最終面接	最後の面接です。 気を引き締めて挑みましょう。

官庁訪問とは



国家公務員として採用されるには2種類の試験を突破する必要があります。1つは人事院が実施する試験（いわゆる第1次試験、第2次試験のことで試験内容は基礎能力試験、専門試験、人物試験等）で、もう1つは各府省庁等が個別に実施する試験（いわゆる官庁訪問のこと）です。ここでは環境省が行う官庁訪問について簡単にですが説明したいと思います。

官庁訪問での面接の形式

1次面接は電子メールで事前に訪問日を予約します。面接は自然系職員の方と行う面接（2対1）、原課面接（1対1）、人事担当の方との面接（1対1）の計3回行います。面接時間は15分程度ですが人によっては延びることもあるようです。

2次面接は1次面接後に採用担当の方から指定された日時に行います。面接形式は幹部職員の方々との2対1で、時間は20分程度でした。

H27年自然系官庁訪問スケジュール

7/8 水	人事院第1次試験合格発表	
7/12 日	官庁合同業務説明会	
7/22 水 ~ 8/10 月	人事院第2次試験	
8/18 火	官庁訪問予約開始	メールで予約します
8/19 水	官庁合同業務説明会	
8/20 木 8/21 金 8/22 土 8/23 日 8/24 月	官庁訪問1次面接	* 環境省は20, 21, 24日
8/25 火	官庁訪問2次面接 人事院第2次試験合格者発表	1次面接合格者のみ訪問
9/11 金	最終面接	

「官庁合同業務説明会」...人事院1次試験合格者を対象とした説明会です。

官庁訪問前に直接お話を聞ける最後のチャンス。

上記の内容はH27年度の官庁訪問の情報です。最新の情報については人事院のHPや国家公務員試験採用情報ナビ（<http://www.jinji.go.jp/saiyo/saiyo.htm>）、環境省のHP

（<http://www.env.go.jp/guide/saiyo/index.html>）等を参照し、採用担当者の指示に従ってください。

| 内定への道

利用した資料・参考書一覧 編

専門試験でよく使ったものBEST3 (林学)

1 位 林学試験過去問 (数年分)

林学区分の内定者のほぼ全員が使っています。入手方法は人事院から取り寄せたり、先輩からもらったり、大学でもらったりなど。総合職の過去問もやっていた人が数名。

2 位 森林・林業白書 (林野庁)

最新の林業政策、林業統計はこの本を熟読すべし。過去問を解くにあたって過去の森林・林業白書も図書館とかでチェックしましょう。

3 位 森林・林業実務必携 (朝倉書店)

林業のいろはをまとめた本です。試験に出るだいたいの単語はこれに出てきます。ただ、内容が細かいので、森林分野が専攻でない人には読みにくいかもしれません。数式の暗記もほどほどに。

ほかにも・・ニューフォレスターズガイド林業入門(全国林業改良普及協会) 環境白書(環境省) 環境省 HP、林野庁 HP などなど

専門試験でよく使ったものBEST (農学)

1 位 スーパー過去問ゼミ 農学・農業

一般職の過去問が多く載っているのでおすすめです。これを何回かやるだけでもかなり力がつくはず。ポイントがまとまっていて、農学が専門でない方も始めやすいと思います。細かい知識は他の参考書で補いましょう。

ほかにも・・農学通信講座(LEC) プロが教える農業のすべてがわかる本(ナツメ社) 技術系よく出るシリーズ 農学・農業の頻出問題(実務教育出版) 農学基礎セミナー(農山漁村文化協会) などなど

専門試験は専門分野じゃない人が結構受験し、かつ内定をもらっているので、努力は必要だと思いますが、独学でもなんとかなるようです。

1位 速攻の時事(実務教育出版)

1位と言いつつ、時事対策何もしていない人が結構いました。自分のスケジュール的に時事を捨てていいのかどうか、他で点数を狙った方がいいのかどうか、勉強を始める前によく考えたほうがいいと思います。

2位 スーパー過去問ゼミ 各シリーズ(実務教育出版)

3位 過去問新クイックマスター各シリーズ (東京リーガルマインド社)

2位も3位も中身は同じ。解説も同程度。分量、レイアウトなどお好みで選んでください。

ほかにも・・・

過去問(人事院から取り寄せる) 地方上級教養試験過去問500(実務教育出版)、畑中敦子の数的処理の大革命! (東京リーガルマインド社)、畑中敦子の判断推理 (エクシア出版)、速攻の時事(実務教育出版)、ユーキャンの公務員講座テキスト、必ず覚えられる TOEFL テスト英単語 3400 (アルク) みるみるわかる解法の玉手箱 (資格研究会) 自然科学(地方上級・国家2種レベル対応公務員試験対策パスラインシリーズ)(河合塾) プラクティス 法学実践教室 憲法編 (成文堂) などなど

総合職の基礎能力試験の過去問をやっていた強者もいました。知能分野(数的処理・判断推理とか)は特にみなさん力を入れてやっていたようですが知識分野(歴史とか化学とか)は参考書を特に買っていない、そもそも手をつけていない人も多かったです。

その他(官庁訪問等に使えるもの)

1位 各種パンフ (内定者の声、環境省自然環境局「人と自然の共生をめざして」) 環境省レンジャーの仕事、環境省パンフレット)

官庁訪問の面接の材料としても、勉強のモチベーションアップとしても使えます。必読。

ほかにも・・・

公務員試験マル秘裏技大全 (洋泉社) 現職人事が書いた「面接試験・官庁訪問」の本 (実務教育出版) 図で見る環境白書 (環境省) 公務員の仕事入門ブック、公務員試験学習スタートブック、公務員試験直前対策ブック (受験ジャーナル) などなど

内定者 A さんの場合

プロフィール

【最終学歴】大学院卒業見込み 【学年・性別・年齢】修士 2 年・女性・24 歳

【参加した説明会・回数】1 次試験後の合同説明会等・2 回 【併願先】国家総合職

【試験区分】林学

【専攻科目】森林管理学

志望動機

私は幼い頃から動物が好きで、小学生のあるときに地元の動物園の一日飼育員体験に参加しました。動物園の飼育員の一日の仕事を体験するというものなのですが、体験の最後に、飼育員の方からその動物園で保護されている絶滅が危惧される動物について説明がありました。人が持ち込んだ外来生物との関係やロードキルによって多くの命が失われていることを知り、強い衝撃を受けたのを覚えています。これをきっかけに同様の問題に関心を持つようになりました。私は、色々なことを知るうちに、人と動物が良い関係を持ちながら暮らしていける世の中にしたいと考えるようになりました。そして、自分自身がそのために働きたいと考えるようになりました。直接的な管理に携わるだけでなく、たくさんの人々に生き物のことやそれらが抱える様々な問題について知ってほしいと考えています。レンジャーとして携わることの出来る豊かな自然の中で、人と動物・自然を繋ぐ役割を担いたいと思い、環境省を志望しました。

勉強方法

勉強方法

どの分野も計画的に取り組むことを大切にしました。限られた時間の中で勉強しなくてはならないので、特に試験前 2～3 か月は、月間計画を立てることをおすすめします。

基礎能力試験

基礎能力試験は初めて知る内容が多く不安だったため、勉強を始めたのは今年の 5 月頃です。しかし、研究にも時間を割かなくてはならなかったため、実際は勉強していなかった時期もあり、時間を見つけては勉強するといった感じでした。勉強には、ユーキャンの公務員講座のテキストを使用しました。知識問題ではどうしても得意な部分・苦手な部分があるのでテキストをどのページも均等に勉強するのではなく、時間配分に気を付けて計画的に取り組むようにしました。数的推理等の問題には試験までに感覚が掴めるように継続的に取り組み、時間を計りながら問題を解きました。苦手な部分などに限定して過去問にも取り組みました。とにかく、「自分は何が出来て何が出来ないのか」をしっかりと把握して、計画的に勉強することが重要だと思います。

専門試験

専門試験の勉強を始めたのは今年の 12 月です。林業白書と森林林業実務必携を片手にひたすら過去問を解きました。初めは分からない問題がたくさんありましたが、問題を解き林業白書と森林林業実務必携で調べてノートに書き留めるといった作業を続けていると、だ

んだんと解けるようになっていきました。後半は一度解いた問題を再度解きなおしました。自分が特に関心のある分野ですし、大学のまとめをしている感覚で勉強はやりやすかったです。問題を解いていてよく分からないところは、日々大学の講義内容をノート・ファイルにまとめていたものがかなり役立ちました。まだまだ公務員試験までに時間があり、林学を専攻している皆さんは是非大学の講義を大切にしてください。

専門記述試験

私は正直なところ、専門記述試験にはあまり力を入れて勉強しませんでした。内容は多肢選択式の試験の対策で勉強できると考えていましたし、大学院受験の際にかなり専門分野の記述を練習したので、比較的自信を持って試験に臨みました。試験直前の練習として過去問を何問か解きました。

二次面接&官庁訪問

自分はどんなことを思って環境省で働きたいのか、分かっているつもりでも口で明確に説明するのは難しいことだと思います。自分の考えを紙に書き出して、どうしたら面接官の方々に思いが伝わるかじっくり考えることが必要だと思います。自分はどういう性格なのか、長所・短所はどこで、どんな部分を知ってもらいたいかを（なぜそう言えるのかというところまで）整理しておくのも大切です。私自身、緊張して思うように話せなかった面接は何度もありましたが、それでも一生懸命に話していれば、面接官の方々は最後までしっかりと聞いてくださいました。面接を憂鬱に感じている方は多いでしょうが、応援してくださる方もたくさん出会えると思います。諦めずに頑張ってください。

| アドバイス

内 定までの道のりで多くの人に出会いました。受験生の方ともたくさん知り合いましたが、皆素敵な方ばかりで、そんな中で私が内定を頂けたことには驚きです。私は自己アピールが得意な方ではありません。それでも前を向いて試験に臨めたのは、「環境省で自分はこういうことをしたいんだ」と強く思うことがあったからだと思います。是非、環境省でどんなことがしたいのか、じっくり考えてから試験に臨んでください。自分の志すことが分かっているだけでも頑張れると私は思います。最後まで読んでいただきありがとうございました。

内定者 B さんの場合

プロフィール

【最終学歴】大学卒業

【学年・性別・年齢】既卒・男性・28歳

【参加した説明会・回数】なし

【併願先】なし

【試験区分】林学

【専攻科目】国際政治学・日本法制史

志望動機

今も現役でボーイスカウトをやっている父の影響で、私も自然が好きになり、小さい頃から、レンジャーや研究者などの自然にかかわる仕事がしたいと思っていました。しかし高校生になり、数学や化学ができるのに、生物だけが全くできず、結局法学部へ進学し、卒業後は普通の事務の仕事に就き、仕事や人間関係に何一つ不満のない生活を送っていました。生物はできなくとも自然が好きという気持ちは変わらず、社会人になっても、吉野熊野国立公園の岩場でクライミングしながら、夜はキャンプで過ごしたり、満月の夜、月明かりだけで穂高を縦走したり、間ノ岳や日光白根山の山頂から見る朝日に感動したり、道東の阿寒、知床、釧路湿原国立公園をキャンプして回ったり、磐梯朝日国立公園の沢を遡行したり・・・休日はほとんど自然の中で過ごす日々のなか、なんとなく昔あこがれていたレンジャーのなり方を調べたところ、「あれ？理系の大学出てなくても試験受ければレンジャーになれるのか・・・」自然科学についての知識が全くない自分がきちんと仕事ができるのか、条件もいい今の勤め先を辞めてまでやりたい仕事なのか、などいろいろ悩みましたが、レンジャーの仕事は人と関わる仕事がほとんどだと知り、「小さい頃夢だった自然の近くで働く仕事であり、しかも自分の好きな“人と関わる仕事”ができるなら」と思い、挑戦しました。

勉強方法

勉強方法

働きながらの勉強だったため、平日は朝5時に起きて勉強し、仕事が終わる次第勉強することで毎日3時間は確保していました。土日は一日中勉強し、最低でも12時間は勉強をしていました。勉強はもともと好きですし、全く知らない分野の勉強だったので楽しく勉強できましたが、家事やクライミング(!?)もしなくてはならないため、時間を確保するのに苦労しました。予備校や模試は一切使いませんでした。

基礎能力試験

知識分野は勉強しても点数に結び付きにくいので、数的処理、判断推理の勉強しかやりませんでした。点数は環境省であれば関係が無さそうなので、足切にあわないようにすればいいと思います。

専門試験

法学部ですし文系でしたので林学について何も知識はありません。しかも既卒なため、周りに頼れる人もおらず完全に独学でした。過去の内定者の声を参考に人事院から過去問

を取り寄せ、コピー用紙に一問ずつ貼り付け、今年の1月から本格的に勉強を始めました。問題は解けるはずがないので、最初から1問ずつ5肢のすべてを検討し、裏面に必要な知識を書き込むという勉強方法をしていました。6年分をやり、分野別に分類し、何度も繰り返し解き、飽きたら「森林・林業実務必携」をコピー用紙に丸写しをするという作業をしていました。この勉強方法で法学部出身でもそれほど悪くない順位で最終合格できました。あと毎年4月に茨城県つくば市にある森林総合研究所が一般公開をしているのですが、林道や育苗などの分野の最新の情報が手に入りますし、研究所内の樹木園の見学も解説付きでしていただけるので大変勉強になりました。

専門記述試験

過去問は一通りやってみましたが、一般職試験は傾向として専門的な知識を問う問題よりも、森林政策などを問う問題が多かったので森林・林業白書を熟読していればいいかなと思います。

二次面接&官庁訪問

二次面接はわざわざ休みをとって2時間かけて行ったのにきっかり15分で終わりました。質問も面接カードに沿って聞かれましたので、面接カードに書いてあることはしっかり答えられるようにしておいた方がいいと思います。あと、あえて面接官が質問しやすいように面接カードを作っておくと、こっちも「やっぱりそこ聞くか」と余裕が持てます。事前に周りの人に「この面接カードだったら何が聞きたくなる？」と聞いておくといいかもしれません。官庁訪問も基本的には同じですが、面接官のレンジャーの方々には二次面接ほど甘くないような気がします。私は説明会に行かなかったのですが、官庁訪問で初めて知ったレンジャーの仕事の実態がいくつもあり、それについて「自分がもしレンジャーだったらどう考えるか？」を聞かれ、官庁訪問のすべての面接で、失敗したなぁと思っていました。時間に余裕があるのであれば、何とかしてレンジャーに会いに行き、実際の仕事を聞いた方がいいのではないかと思います。

| アドバイス

文系で、既卒で、資格もなければ、説明会も行っていないし、レンジャーにも会ったことがない、知り合いがいる訳でもない自分がよく内定を頂けたなと今でも信じられません。HPに「官庁訪問の採用プロセスにおいて年齢、性別、出身校などは一切関係ありません」とありますが、私の経歴や年齢で内定を頂けたのでこれは本当のようです。とはいえ自分の何を見ていただき内定を頂けたのか分からないので「こうすればいい」とは言えませんが、「面接官は自分なんかをよく知ろうとしてくれているありがたい人だ」なんて思いながら面接に臨んでいました。自分の今までの経歴や大学で勉強してきたこと、自然への思いなどを、興味を持って真剣に話を聞いていただけたのは、純粋に嬉しかったです。

内定者Cさんの場合

プロフィール

【最終学歴】大学卒業見込み 【学年・性別・年齢】学部4年・男性・22歳
【参加した説明会・回数】1次試験後の合同説明会・1回 【併願先】国家総合職
【試験区分】林学 【専攻科目】造園科学

志望動機

私は小さい頃から自然が好きだったので、ただ漠然と自然に関わる仕事に就きたいと考えていました。その思いを確かなものにさせたのが、大学2年生の時に参加した耕作放棄地の修復作業の体験です。里山での体験を通じて、人と自然との関りについて考え始めるようになり、豊かな自然環境を未来に残していきたいと思いました。また、環境保全是地域の方を中心とする様々な立場の人々との協力が不可欠だと思い、現場において状況把握をした上で、幅広い問題に取り組むことができる環境省一般職を志望しました。

勉強方法

勉強方法

大学入試に失敗した経験から、今までのやり方では公務員試験にも失敗するだろうと思い、勉強の仕方を見直すことから始めました。また、大学で公務員講座を開いていたので教養・専門ともこちらに参加しました。

基礎能力試験

教養試験はセンター試験に似たような問題が多いので、高校時代のテキストを参考にしました。知識分野は範囲が広く、受験期に蓄えた記憶もかなり薄れてくるので、しっかりやろうとするとかなりの勉強時間が必要になりますが、出題されるのはわずか1、2問くらいなので、努力が報われにくい科目です。あまり時間をかけすぎず、公務員講座で取り扱った問題だけは覚える、など内容を絞った方が良いと思います。高校時代に勉強しなかった日本史や世界史は最初から捨てていました。その分、配点の高い知能分野に力を入れました。苦手な数的処理は解き方のコツを覚えるまで基本的な問題で練習し、模試で間違えた問題は自力で解けるまで何度も復習しました。英語は単語力と長文を読む体力が求められます。片道2時間半の通学時間のうち電車に乗っている1時間半は単語を覚えるために有効利用しました。時事問題は、速攻の時事を読んだこと以外は特に対策はしませんでした。メディアは信用しないという変なこだわりを持っていたのですが、新聞くらいは読んでおいたほうが良かったと思います。

専門試験

私は大学の専攻が造園学だったので、普通なら土木の試験を受ける場合が多いと思いますが、物理が苦手な私には土木は向いていないと感じていたため、農学か林学のどちらかを選ぶ必要がありました。農学はかなり幅広く出題される科目なのに対し、林学は比較的

狭い範囲を深く問われるという特徴があり、長い間迷った後、林学を選びました。自分の勉強のしやすい方を選ぶといいと思います。とはいえ、専門外なので、過去問を見てもさっぱりわからない状態でのスタートとなり、最初はかなり苦戦しました。そこでまず、入門書として「ニューフォレストーズガイド」を読み、全体の内容を確認し、次に大学の他学科の授業を受けることで、基礎的な知識を習得しました。それと並行して過去問を解き、参考書で該当箇所を探して読み込むという方法で、同じ問題に繰り返し触れることで少しずつ慣らしていきました。参考書は「実務必携」と「森林・林業白書」などを使いました。

専門記述試験

大学の公務員講座を利用したのと、過去問を使って勉強しました。

二次面接&官庁訪問

面接カードをインターネットからダウンロードし、事前に記入したものを面接当日に持参します。面接は面接カードに沿って行われますので、内容をよく練っておく必要があります。公務員ジャーナルという雑誌に、合格者の体験談が詳しく掲載されているので、面接の雰囲気を知るために参考にしました。私は、面接の3週間前に大学のキャリアセンターの先生に模擬面接をしていただきましたが、あまりにも準備が足りないと怒られてしまい、かなり悩みました。しかし同時に、ちゃんと準備をして落ちた人はいない、という助言をいただき、できるだけことをしてみようと思いました。家族や友達に自分のことについて聞き、過去の出来事について思い起こしてじっくり作り上げました。当日は、面接カードにないことも聞かれますが、落ち着いて、自分の言葉で表現するよう努めました。

| アドバイス

筆記試験・面接試験ともに、専門的な知識が不足していたと思います。今さらですが、基礎的な勉強をきちんとしておけばよかったと後悔しています。筆記試験をギリギリで合格したので、内定が決まったことに正直驚いています。公務員試験の勉強は量が多く、途方に暮れることもあるかもしれません。でも、今の自分に出来ることをやってください。諦めなければ必ず道は開けます。あとは運次第です。私も、進路について悩んでいる時は、あらゆる方向について志望理由を考えました。その中で、公務員の志望理由を充実させていくことができました。公務員・民間・進学など様々な進路がありますが、自分にはこの道しかない決めつけず、あらゆることに挑戦してみてください。人生は長いのですから。それでは、皆様のご健闘をお祈り申し上げます。

内定者Dさんの場合

プロフィール

【最終学歴】大学院修了見込み 【学年・性別・年齢】修士2年・男性・24歳
【参加した説明会・回数】1次試験後の合同説明会、各府省合同説明会
【併願先】鹿児島県庁、林野庁
【試験区分】林学 【専攻科目】地域保全生態学

志望動機

幼いころからみどり豊かな田舎で生活していたので、生き物や自然とふれあうのが好きになり、将来は自然に関わる仕事に就きたいと思っていました。大学・大学院では生態学を専攻に、伊豆沼をフィールドとして研究を行ってきました。夏はハスの花が美しく咲き、冬は渡り鳥が数多く飛来する貴重な環境ですが、外来種の流入・ハスの優占化・渡り鳥が集中し、糞による水質悪化など数多くの問題も抱えております。問題解決の一助となれるよう、私も職員の方々と協力してデータを集め、研究を進めていくにつれ、難しくもやりがいのある環境保全に惹かれていきました。

就活が始まり環境調査・再生エネルギーなどの説明会にいくつか参加しましたが、やはり自然に直接関わり、保全・利用する仕事が自分のやりたいことだと感じました。そこで環境保全なら環境省がいいだろうとHPを見てみると、「レンジャーがまさに自分の求めていたものだ！」と感じ、詳しく調べていくにつれて、ますますこれしかないと思い始めました。そして説明会でレンジャーの方が非常に楽しそうに自身の業務を紹介しているのを見て、自分もこうなりたいと思い、レンジャーを目指すことに決めました。

勉強方法

勉強方法

初めは民間での就職を考えていたので、本格的に勉強を開始したのは修士2年の4月からでした。常に「試験日まで後何日しかない…」と意識しながらの勉強でしたので楽ではありませんでした。ぜひ無理のないよう計画的に勉強することをおすすめします。

基礎能力試験

配点の比率が林学より低いこと、林学の知識がほぼゼロであったことから教養より専門に集中して取り組んだため、そこまで力を入れませんでした。問題の流れをつかむために、過去問を2年ほど一度解きました。

専門試験

林学は専攻していなかったため、独学での学習を行いました。参考書として、『森林・林業実務必携』、『森林・林業白書』を主に使用しましたが、林学初心者の私にとって非常に難しく、初めは内容がなかなか頭に入りませんでした。そこで入門書として使用したのが『ニューフォレストーズガイド』です。分かりやすい内容で、イラストも多い(笑)ので初心者の方におすすめします。勉強方法は、これらの参考書+インターネットを用いて、過去問5年

分の解答・解説集を作成する、というかたちで学習しました。具体的には、過去問をルーズリーフに貼りつけて、全選択肢の解説を余白に書き込む 貼りつけたルーズリーフを似たような分野ごとに分けてまとめる、です。文章にすると短いですが実際に 1 問作成するのにとても時間がかかったため、当初 10 年分する予定でしたが最新 5 年分に絞りました。

専門記述試験

「森林・林業白書」を読み込み、森林・林業に関するニュースに目を通すようにしました。解説を作成し終わるころには、小論文に対してもある程度書けるほどの知識が身に付いていたため、感触をつかむ目的で過去問を数年分解きました。

二次面接&官庁訪問

面接対策として何をすればいいのかわからなかったため、私は大学にあるキャリア支援センターで面接シートの添削と面接練習を行いました。本番の面接では基本的に面接シートに沿って進むので、面接シートは熟考して作成して下さい。私は自身の面接シートからどのような質問がくるか、話すときはどこを補足して喋るか、などを考えて本番に臨みました。本番ですが、面接官の方は非常に気さくな方が多く、楽しく雑談していたこともありました。下手に自分を偽らず正直に話したこともプラスに働いたのではないかと、思いました。

| アドバイス

も しまだ時間がありましたら、ぜひ実際に国立公園を訪れてみて下さい。自分の目で、耳で、体で経験した自然は面接での強みになりますし、何より「ここで働く」というイメージが出来ると思います。また、職員の方にもぜひお話を聞いてみて下さい。きっと自身の体験談やアドバイスを嬉しそうに語ってくれると思います。

試験勉強や官庁訪問中は、不安で心が折れそうになることもあると思います(実際に自分がそうだったので)。その時は説明会や国立公園、環境省の HP に行ってみて下さい。自然と「やっぱりレンジャーになりたい!」、そんな気持ちがわいてくると思います。その思い、熱意を胸に秘めて努力すればきっと夢は叶うと思います。皆さまと一緒に働ける日が来ることを、楽しみに待っています。頑張ってください。

内定者 E さんの場合

プロフィール

- 【最終学歴】大学院修了見込み 【学年・性別・年齢】修士2年・女性・25歳
【参加した説明会・回数】大学で行われた説明会に一度のみ
【併願先】民間（メーカー、広告、インフラ...etc.）
【試験区分】林学 【専攻科目】森林生態学

志望動機

今 まで学んできたことを活かしたい、自然と戯れていたい、いろんな人と関わりたい、環境教育を通して発信したい...などなど。そしてそれらと「日本の自然生態系が抱える課題を解決して、もっと元気にしなければ」という使命感を持っていることもあり、「環境省」「自然保護官」という名前に惹かれ、私の中でレンジャーという仕事に結びつきました。

勉強方法

まず、私は民間企業を第一希望に就職活動をしていたこともあり、公務員試験の勉強には一切手をつけていませんでしたし、面接や官庁訪問等も特に準備はしていませんでした。そのため情報不足が甚だしく、直前にかなりばたつくことも。そうとなれば、どうして道が開けたのか。関わりがありそうな部分をお話しします。

勉強方法

試験全体に関しては、前年度に総合職試験をおためしで受験しており、会場も同じということもあって、雰囲気や時間配分は把握していました。その当時は棚からぼたもちを期待しての受験でしたが、受けてみていて良かったと思っています。

基礎能力試験

民間企業が扱う web テストや SPI 試験を何度か繰り返すことで、知能分野の問題にはだいぶ慣れていました。その分野は特におためしで受けた時よりもすらすらと解けました。

専門試験

「林学」に関しては、今詰め込んでもすぐに忘れてしまいますし、それまでに培った部分だけで勝負しています。特に大学の講義や実習、大学院入試の際に読破した森林・林業白書で培われたものと思われます。もちろん、決して運が良かったのではなく、興味を持って学んでいた姿勢が活かされたかな...と、少し無理があるようにも思われますがポジティブに捉えています。

専門記述試験

記述があることは当日に知りました。準備ゼロの弊害です。ですが、林学を学んでいる人ならよく見る図表が示され、かつ何を述べるべきかがとても分かりやすい問われ方だったので、特に問題はありませんでした。

二次面接&官庁訪問

面接は民間企業と同じ姿勢で臨みましたが、「どうして公務員なのか・どういう公務員になりたいか」という質問には特別なものを感じたので紹介します。私がこの時即座に答えられた理由は、両親が公務員で、公務員という立場が身近にあったからです。公務員として働く人を見たり、話を聞いたり、さらに周りの評価も聞いたりすることを通して、自分が目指す「公務員像」がぱっと出るようにしておくことは結構重要かもしれません。

官庁訪問では、当日必須の面接カードの存在を開始 15 分前に知り、開始時間ぴったりに書き終わるといふ、なんとも恥ずかしいことをしてからのスタートになりました。しかしこれによって「短時間で書いてすごい」といふお言葉を面接官の方からいただきました。もしかしたら道が開けた理由のひとつかもしれませんが、危険なのでマネしないように。

官庁訪問の面接では、全てにおいて「志望動機（何がしたいのか）」をしっかり話すように心がけていました。私に興味を持ってもらうこと、興味を持っていることを示すこと、そして大前提として、固くならずありのままに挑むことを大事にして臨みました。今思うとかなりフランクに接して下さる方もいらっしやったので、結構大事なことだったのではないかなと思っています。

| アドバイス



立公園には観光目的で何度か行っているにしても、レンジャーに会ったことはないですし、民間ばかり志望して就職活動をしていますし、情報不足は本当に甚だしかったです。これを読んでいるみなさんは問題ないかと思いますが、HPや資料はしっかり読み込むようにして下さい。どうか、これでも受かるのか！と思わぬように...

また、ここまで伏せておりましたが、実は私は大学院 1 年生の時に他省庁で 2 週間のインターンシップに参加しており、霞ヶ関にある本庁に通っていました。その省庁の人たちが語る「環境省」の話の聞いていたり、実際に環境省で行われる会議に参加させていただいたり、レンジャーへの道に参考になりそうな貴重な機会もいただいていたので、他省庁だったにせよ、インターンシップはかなり有効かと思うので、ぜひおすすめします。

今後どんな仕事か、まだ分からないところではありますが、一般職レンジャーは自然と関わるだけでなく、人との関わりもかなり大事にしている仕事だと思っています。官庁訪問では、話の内容よりも、伝える力や、どれだけ相手を気持ちよくできるか、それを実際の仕事にも応用できる人を求めているのではないかと、今回の採用を通して感じています。もちろん基礎知識を持つこと、モチベーションも大切ですが、今からできることは何なのかを考えて、着々と道を歩んで行って下さい。

最後に。就職活動全般の話をして、**「運と縁とタイミング」**は本当に大事です！...ということ、私の話で感じとって、励みにしていただければ幸いです。

内定者Fさんの場合

プロフィール

【最終学歴】大学院修了見込み 【学年・性別・年齢】修士2年・女性・25歳
【参加した説明会・回数】一次試験合格者説明会など 6回 【併願先】地方上級（林業職）
【試験区分】林学 【専攻科目】景観生態学

志望動機

環 境省で働きたいと思った一番の理由は、漠然ではありますが「人と自然が共生する社会の構築に携わりたい」と考えていることにあります。

大学で森林の社会的、生物学的意義や生物多様性の重要性について学ぶ中で、自然は人が能動的に破壊することがある一方で、利用しないことでも変化してしまうことを知りました。

このようないわゆる第二の危機は今後人口の減少が進む中でより顕著になっていくと推測されています。さらには、地球温暖化や外来種の問題などこれまで誰も経験したことのない要因によって、人と自然の関わり方が変化していくことが予想されています。

この過程では国民に自然環境についての理解を促し、一体となって自然環境の問題に対して取り組む姿勢が必要になると考えています。国民への啓発を優先的に行うことを考えたときに、レンジャーという仕事が最も積極的に取り組める仕事であると大学3年生時の説明会でお聞きしたことからレンジャーを意識するようになりました。

勉強方法

勉強方法

試験受験の前年度秋に、大学主催の公務員試験対策の説明会でどのような問題が出るのか情報収集をしました。基礎能力試験の出題数や範囲、目標得点率(目標7割)などは、今後の勉強計画を立てる上で非常に大切だと思います。その後、年内は林業白書を読みつつ、数的処理の問題を時間があるときに解くようにしていました。年明け後、地方上級公務員試験を受験する機会があり、基礎能力試験の問題をただ解くだけでなく、制限時間を意識する必要性を感じました。どのような問題が出るのか知りたい人や場馴れしたい人は、追加募集などの公務員試験を受けてみるといいかもしれません。3月以降は基礎能力：専門：専門記述 = 4:5:1 くらいの割合で勉強していました。

基礎能力試験

数的処理、判断推理、資料解釈及び時事を重点的に取り組みました。「畑中敦子シリーズ」を繰り返し解き、問題慣れを図りました。ある程度慣れてきたところで、過去問を時間通りに解いてみて、間違った問題だけ集めたノートを作成していました。参考書と過去問及び以前間違った所ノートを繰り返しやり、解ける問題を増やしていくことで自信を付けるようにしていました。どんなに忙しくても、一日一題以上の問題を解くことで、感覚が鈍らないように注意していました。

また、時事問題については「速攻の時事」を繰り返し時間があるときに読んでいました。

最新のニュースについては、新聞社のニュースのメール配信サービスを利用して、毎日ニュースを読むようにしていました。これは、後に官庁訪問でも役に立ちました。

専門試験

専門試験の勉強では、最新の森林・林業白書(林野庁)、森林・林業実務必携(朝倉書店)及び林業実務必携第3版(朝倉書店)を参考にしていました。林業実務必携は少し古い本になりますが、森林・林業実務必携で抜けている内容について記載があるので、手元にあると安心かと思います。

上記の参考書を基に、5年分くらい過去問(総合職・一般職)を解いて、間違った所や自信がなかった所を重点的に復習していきました。特に、正解以外の選択肢のどこが間違っているのか、正解についてはどんな経緯があったのかまで勉強すると、その後の問題演習や二次試験対策になるのでおすすめです(時間は相当かかかりますが...)。また、地方上級(林業職)の問題は一般職試験の問題に近いので時間があれば見てみるといいかもしれません。

専門記述試験

専門試験の際に林業行政の流れを意識して勉強していたので、過去問でそれを文章としてアウトプットすることをしていました。ただ、時間としてはほとんど専門試験(択一)の勉強に使っていました。

二次面接&官庁訪問

二次面接では、面接カードに書いたことについて、様々な角度から質問されても大丈夫なように自分で言葉にして考えるようにしていました。それぞれのエピソードについて、5W1Hを明確にしていくとともに、失敗したときや困難に直面したときにどのように考えて、解決してきたのかまで整理しておく、自信になると思います。

官庁訪問でも大まかには面接カードに書いたことを中心に聞かれます。しかし、それ以上に自分がどのようなことに興味を持っているのか(いわゆる逆質問)についても聞かれるので、自然行政に関するトピックスについては情報収集をするようにしていました。逆質問は自分が興味を持っていることや自分の考えを発信する機会でもあるので、積極的に情報を集めるといいと思います！

| アドバイス

環境省の仕事はやりがい大きい分、時に大変なこともあるようです。そのため実際にどのようにレンジャーの皆さんが働いているかを知るためには、積極的に説明会に参加したり、直接レンジャーの方に連絡を取って話を聞いてみたりすることが一番だと思います。私は、研究室の先輩のついでで連絡を取りましたが、近くにある環境省の地方事務所の連絡先を調べてお伺いしてみてもいいかもしれません。先輩レンジャーの仕事を肌で感じることで、勉強や就活が辛い時期にも大きな励みになります。

また、就活は様々な分野の方から話を聞けるまたとないチャンスです。環境に関わる仕事はレンジャー以外にもたくさんありますが、それぞれ環境に対する考え方は異なります。

多様な話を聞いた上で、環境省で働きたいと感じた人は本当にレンジャーに向いている人なのかなと私は思っています。

皆さんと一緒に働けるのを楽しみにしています！ぜひ悔いのないよう頑張ってください！！！！

内定者Gさんの場合

プロフィール

【最終学歴】大学卒業 【学年・性別・年齢】既卒・男性・22歳
【参加した説明会・回数】地方大学で行われた説明会1回 【併願先】農林水産省、県庁
【試験区分】農学 【専攻科目】植物生態学

志望動機

私は、小さい頃から自然や生き物が好きで、そのまま生物科学科に入学し、学部4年生では植物生態学を専攻しました。その研究室の教授がいくつかの自然再生事業に関わっており、私もお手伝いのような形で携わらせていただきました。私はその経験を通して、自然の保護あるいは自然の保全には、地域の住民、研究者、行政など多くの人間が協力し合わなければならないこと、成果がでるまでに十年以上の長い時間がかかること、その過程で莫大なお金が必要であることを学びました。

しかし、自然保護に関心をもつ人はまだ少ないのが現状であると私は感じています。今後、日本や世界の自然を守り後世に残していくためには、さらに多くの人の協力や理解が必要です。ならば協力や理解を得るために、自然の素晴らしさを知って欲しいと思いました。私は国立公園である南アルプス赤石岳の雄大な景色をみたとき、「自然ってこんなに素晴らしいのか!」と強く感じました。シンプルな感想ですが、ただただその素晴らしさが体を突き抜けたのを今でも覚えています。自らがまず自然を愛し、たくさんの人々に自然の素晴らしさを伝えることができるのはレンジャーしかないと考え、環境省一般職自然系を志望しました。

勉強方法

技術職を受ける方は独学の方も多いと思います。私も半分ほど独学でした。私が筆記試験の対策を始めたのは学部3年生の8月でした。まずどのような試験であるのかということや、近年の平均点、試験の流れや配点、時間配分などの「ルール」を把握しました。人事院のHP、公務員試験の参考書や予備校のHP等を見れば、だんだんわかんと思います。技術職では専門試験が教養試験の倍ほどの配点だったため、専門試験から始めていきました。もちろん、どんなに専門試験の点数が良くても教養試験で点数が低いと不合格となるので教養の対策も必須です。学習方法は、多くの方と同様にひたすら問題を解くスタイルでした。公務員試験は、自分のレベルに合わせて合格点を目指す、効率重視の勉強をするべきだと思います。満点をとる必要はありません。

基礎能力試験

教養試験の内容は、多くが「文章理解」や「数的推理」とよばれるものです。これらは訓練が必要なので早くから少しずつやることをおすすめします。私の場合は学部3年生の8月頃、「スー過去」を購入して試験勉強を始めました。個人的にはやっていて楽しい勉強だったので、あまり苦労はしませんでした。学部3年生の12月頃、全範囲を一通りすませて、そこからは毎日いろいろな範囲を1問から2問ずつ解きました。1日3時間を目安にやっていたと思います。

歴史、地理、科学などの知識分野は学部3年生の1月頃から始めました。私の学部3年生はほぼ毎日実習で、自分の学力にもあまり自信はなかったため、最初から勉強しない捨て科目もあ

りました。1日に1科目1単元、という形で問題集をペラペラする程度で済ませていました。

専門試験

技術職の問題集は少ないと思います。「農学」の問題集もありませんでした（しかし試験本番の4か月前に「スー過去」の農学編が出版され、遅いよ...と思ったのを覚えています）。あったとしても、素人目にもわかるくらい解説が雑か、古い問題集だけでした。そのため、私は公務員講座の通信教材を使いました。念のため「スー過去」の問題集も買いましたが、今から勉強するならスー過去だけでも十分だと思います。

問題を解きながら、自分で疑問をもつことを大切にしました。そうすることで、知識を自分のものにできると考えたからです。疑問に感じたところは図書館へ行って解決しました。さすがに白書や図鑑を買うのは、学生には経済的につらいところでした。

浅く広く手早くやる教養試験とは対照的に、専門試験は深く広くじっくり時間をかけて行いました。しかし実際は問題集の範囲外からも出題されることもあり、過去問を解くたびに報われないうらい思いをしたことは今でも心に残っています。問題演習の他にも、専門書を読むこと、webサイトで調べることは得点につながるはずです。

二次面接&官庁訪問

面接シートにいろいろ書き始める前に、自分自身を掘り下げて考えることが大切です。自分に對し、なぜ、なぜ...と問い詰めていきます。なぜ自分は今のような性格なのか、なぜ自分は、このような長所、短所をもつのか...。それを箇条書きでもいいので書き起こすと、自分が見えてきてすっきりします。それをかいつまんでシートに書けば、本番の面接でもたいていの質問に答えられるでしょう。

それと、面接は場数を踏んでおいた方がいいことがあると思います。自分の関心があまりない省庁や機関でも積極的に面接していると、新しい発見や出会いがあるはずですよ。

アドバイス

白分に合った勉強法、スタイルを早くみつけて実践することが大切であると思います。理系の人ほとんどがそうだと思いますが、私も研究や実習の合間を縫って勉強してきました。研究室の帰りに図書館に寄り、土日はもちろん一日中勉強するというスタイルでやってきました。しかし、普通に人並みに勉強しただけだと思っています。息抜きする日もつくっていました。ネットでは血を吐くまで勉強したという書き込みもみましたが、私はそこまでやっていません。他人がどんな勉強法であれ、あくまで自分に合った方法で勉強して、確実に力をつけることをおすすめします。

最後に、環境省で採用されるためには、国家公務員試験の一次の筆記試験や二次の面接試験に合格し、さらに官庁訪問も突破するという長い試練を越えなければなりません。先行きは長く見通せず、誰にでもくじけてしまいそうなときが必ずあると思います。私も、何回もそんな状況に陥りました。そんなときには、環境省の職員として何をしたいのか考えてみてください。私はそうやって自分のモチベーションを高めてきました。そして、この熱意をもって内定をいただきました。きっと、そんな熱意をお持ちの方ならばどんなことも乗り越えられるはずですよ。頑張ってください！

内定者Hさんの場合

プロフィール

【最終学歴】大学院修了見込み

【学年・性別・年齢】修士2年・女性・24歳

【参加した説明会・回数】1次試験後の合同説明会、学校内説明会等・5回

【併願先】なし

【試験区分】農学

【専攻科目】生物科学

志望動機

自 然や生物が好きだったことがそもそものきっかけです。川で釣りをしたり野鳥を観察したり、自然の中での経験は楽しいものばかりでしたが、「自然を守る」仕事についてはあまり考えていませんでした。大学院に進学する直前に、自然に関する仕事として初めてレンジャーの仕事について知り、「これしかない!」と思ってそこからすぐ勉強を始めました。自然環境保護について学ぶ中で一番強く感じたのは、多くの人に協力してもらわなければ保全は進まないということです。多くの利害関係者がいる中で調整をしていく必要があります。レンジャーは現地で人と関わりながら国レベルで自然環境保護について考えられる非常にやりがいのある仕事だと思い、志望を決意しました。

勉強方法

勉強方法

ネットで情報を集めながら、参考書などを適時入手して独学で進めました。最初から問題演習中心で、農学については大学の図書館で参考書を借りて読んでいました。自分の専攻科目が生物科学だったので一から農学の勉強をする必要があります、基礎能力試験より専門試験の対策に力を入れていたと思います。

基礎能力試験

ひたすら「スーパー過去問ゼミ」をやっていました。最初は時間に余裕があったので知識分野をコツコツやっていたのですが、範囲が広く効率が良くないと感じてしまったため、途中から数的推理、判断推理中心の勉強に切り替えました。専門試験対策に時間をかけていたため、基礎能力試験の勉強時間は少なめだったかもしれません。文章理解は模試や過去問を通して行うときにしか手をつけませんでした、そこそこ点はとれていました。一度過去問を通して解いてみて、力を入れる優先順位を決めてみるのもいいかと思います(個人的には、数的推理・判断推理を早めに始めることをおすすめします)。

専門試験

農学と林学どちらで受験するかでまず迷いました。結局、参考書などでの情報が多かったため農学に決めましたが、やはり大学の専攻と異なるため苦労しました。「技術系スーパー過去問ゼミ」や「農学・農業の頻出問題」を繰り返しやりつつ、図書館で借りた比較的易しい農学の参考書を読んで知識を補うという進め方でした。最初は過去問を見ても知らない単語ばかりで、問題も選択肢も理解できない(笑)状態でしたが、比較的時間をかけることができたため、本番になんとか間に合いました。一般職の試験は過去問を繰り返し

解くことで点がとれると思います。

専門記述試験

正直あまり対策はしていません。農林水産省の「食料・農業・農村白書（概要版）」と一般向けの農業に関する本を読んで、現在の農業の動向などについて知るようにしました。過去問は2、3年分解いたと思います。

二次面接&官庁訪問

二次面接対策は大学の就職支援課の方に手伝っていただきました。本番で提出する面接カードを見てもらい、面接練習を2回程行いました。準備はしっかりしたと感じていたので、本番ではあまり気負うことなく臨めたと思います。面接練習は話す練習になりますし、カードに書いた内容や自分の経験・考えについて深く考えるきっかけになってよかったと思います。

官庁訪問の方はかなり緊張しました。待ち時間が結構あるので時間をつぶせるものがあるといいです（私は環境省関係の資料を読んだり、他の方と話したりしていました）。対策としては、自然環境局の業務について理解できるように、採用HPにあるパンフレットを読んだり説明会で聞いたことを思い出したりしていました。他には国立公園に足を運んでみたり、地方環境事務所を見たくて仙台に行ったりしました（説明会がちょうどあったため）。面接対策は二次面接前に一通り行っていたので、それに加えて自然環境局の業務について詳しく知ること、他の仕事ではなく「環境省一般職自然系」を選んだ理由、自分の適性、そこでしかできないことについてしっかり考えるようにしました。

| アドバイス

受 験を決意したら、とりあえず周りの人に宣言しておくことをお勧めします。自分のモチベーションも高まりますし、応援してもらえます。私は研究室や部活内の先輩に公務員試験の参考書を頂くことができ、非常にありがたかったです。勉強中自分の進路に迷うことも何度もありましたが、企業の説明会や他省庁の説明会に参加する中で「やはりレンジャーになりたい」という気持ちが強くなりました。説明会に参加したりたまたま環境省のパンフレットを見たりするとモチベーションが保てていいかなと思います。それと時間があったら、ぜひ国立公園に足を運んでください。

最後に、就職活動中は悩むこと、不安になることが数多くあるかと思います。私もここまでいろいろ書きましたが、実際には何度も止めたくなりながらなんとか最後まで続けました。自分の「これから」について考える機会だと思って、悔いを残さないように全力を尽くしてください。でも息抜きはしてくださいね（笑）

| おわりに

「一般職自然系内定者の声」

最後まで読んでくださってありがとうございます！いかがだったでしょうか？これから環境省を目指す皆さんの助けになれたでしょうか？

私たちはまだレンジャーの仕事については語るできません。しかし自分たちが通った道については語るができます。この「声」には、私たちが試験に臨んだときの思いや悩み、成功や失敗、あの頃に知りたかったことなどお伝えしたいすべてを詰め込みました。

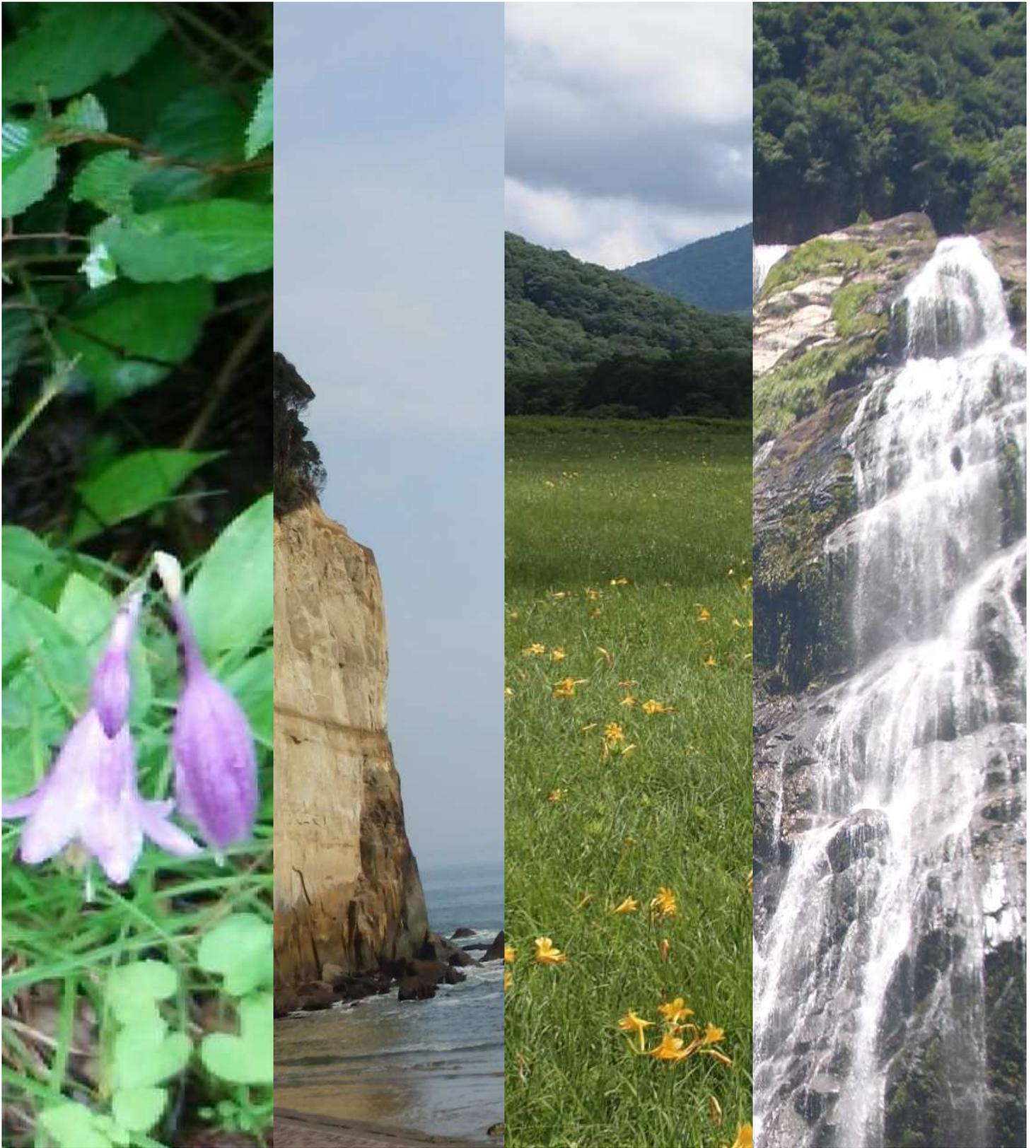
これから皆さんがレンジャーを目指す中で悩むことがあったら、この「一般職自然系内定者の声」をもう一度開いてみてください。きっと悩みに答えることができると思います。そしてそれでも不十分だと感じたらぜひ、現場のレンジャーに会いに行ってみてください！

周りで友達の就職先が決まっていったり、仕事をしながらだったりそんな中で勉強をするのはとても大変なことだと思います。不安や焦りもあると思います。私たちもそれを知っています。ですから、これからレンジャーを目指す皆さんを応援しています！きっと大丈夫、自分を信じて、息抜きもして、また自分を信じて、頑張ってください！いつかどこかで、同じレンジャーとして皆さんと会えることを楽しみにしています。

平成 27 年 11 月

平成 28 年度環境省入省予定 一般職自然系職員内定者一同





編集
平成 28年度環境省入省予定
一般職自然系職員内定者一同